

平成 22 年度新日本未来学会総会

平成 22 年 7 月 17 日

新日本未来学会

議事次第

- | | | |
|-----------|-----------|------|
| 1.第 1 号議案 | 平成 2 1 年度 | 活動報告 |
| 2.第 2 号議案 | 平成 2 1 年度 | 会計報告 |
| 3.第 3 号議案 | 平成 2 2 年度 | 活動計画 |
| 4.第 4 号議案 | 平成 2 2 年度 | 予算案 |

新日本未来学会 平成21年度の活動報告(案)

平成22年7月17日

新日本未来学会の平成21年度(平成21年6月1日～平成22年6月30日)の活動は以下の通りである。

1) 理事会及び総会の開催

平成21年6月20日に立教大学池袋キャンパス内で理事会(議長 公文俊平)を開き、平成20年度の活動報告、収支報告を受け、平成21年度の事業計画と収支予算を了承した。また、企画活動を強化するため、会則を改正して常任理事の定数を増やすとともに、公文会長の重任等、今後2年間の役員案を決定した。続いて開かれた総会で、これらの案件がすべて承認された。

2) 未来学フォーラムの開催

平成21年6月20日に立教大学池袋キャンパス内で、第2回未来学フォーラム(新日本未来学会2009年度未来研究発表会)を開催した。同フォーラムでは21世紀政策研究所の澤昭裕氏の基調講演「地球温暖化問題の裏表」のほか、4つの分科会に分かれて特別テーマについての外部研究者の発表や一般会員の研究発表を行った。

第1分科会の日本の未来分科会では「日本の農の未来」を特別テーマに2件の発表を行った。

第2分科会の世界の未来分科会では「アジア・ニューディール」を特別テーマに1件の発表を行った。

第3分科会の技術の未来分科会では「イノベーション」を特別テーマに2件の発表を行ったほか、会員による2件の一般発表を行った。

第4分科会の未来一般分科会では会員による3件の一般発表を行った。

これらの講演や発表内容をもとに、資料集を作成し、新日本未来学会資料シリーズとして編集し、希望者に配布した。

3) 懇親会の開催

第2回未来学フォーラム終了後、立教大学の食堂の一室で懇親会を開催した。発表者や会員など、40名近くが参加し、懇親を深めた。

4) 企画委員会の開催

平成21年9月29日に未来工学研究所で企画委員会を開催した。

平成22年6月10日に未来工学研究所で企画委員会を開催した。

以上

日本未来学会 平成21年度会計報告(案)

(2009年6月1日～2010年6月30日)

1.収入の部

科 目	人数	単価	金 額	備 考
1. 会費収入			<u>91,500</u>	
個人会費	24.5	3,000	73,500	
役員連絡費	9	2,000	18,000	
2. 催事特別収入			<u>85,000</u>	
懇親会参加費	24	3,000	72,000	
資料購入費	13	1,000	13,000	
3. 銀行利息			<u>168</u>	
4. 繰越金			<u>593,019</u>	
収入合計			769,687	

2. 支出の部

科 目	人数	単価	金 額	備 考
1. 総会及び未来学フォーラム			<u>212,010</u>	6月20日
講師謝金	5	10,000	60,000	基調講演20,000円
外部講師旅費	1		27,040	
懇親会費			105,000	
アルバイト費	2		16,500	
事務局費(交通費、講師用飲料水費)			3,470	
3. 企画委員会			<u>10,920</u>	
会議費			8,400	
書籍費			2,520	
4. 資料作成経費			<u>42,148</u>	
テープ起こし費			25,438	
印刷費			15,750	
発送費	12	80	<u>960</u>	
5. 事務費			790	
振込手数料			790	
支出合計			<u>265,868</u>	
次期繰越金			<u>503,819</u>	
銀行預金			418,798	
現金			85,021	
計			769,687	

新日本未来学会 平成22年度 活動計画（案）

平成22年7月17日

1. 総会、理事会等の開催

総会 平成22年度の総会を平成22年7月17日に立教大学で開催する。平成21年度の活動報告、会計報告、平成22年度の活動計画、予算案を審議決定する。

平成22年度は、総会時に未来学シンポジウム、会期後半に未来学フォーラムを開催する方向で活動する。

理事会 平成22年度総会に先立って開催する他、必要に応じ特別に参集して開催する。

常任理事会 年に2回以上開催し、今後の活動（特に今年度後期の第3回未来学フォーラム及び来年度の未来学シンポジウム）の具体策を検討する。常任理事会には監事にも参加を要請し、通称を企画委員会とする。

2. 未来学シンポジウムの開催と第3回未来学フォーラムの企画開催

平成22年7月17日に、未来学シンポジウム「持続可能なくらしとコミュニティの未来」を開催する。このシンポジウムはHOSP（持続可能なコミュニティを本気で作る大人たちの会）と未来ビレッジ体験塾実行委員会の協力と財団法人未来工学研究所及び財団法人ハイライフ研究所の後援を得て開催する。平成22年度の後期に第3回未来学フォーラムを開催するための企画と準備作業を行う。

3. 広報活動の強化

ホームページを更新するとともに、学会会員の関連活動状況を随時広報するとともに、電子メールを活用してこれらの情報の共有を図る。

4 国際交流

世界未来学会やミレニアムプロジェクトへの自主参加を通じ、未来研究に関する国際交流を行う。

5. 会員の増大と収入の確保を図る

当面、未来学フォーラムや未来学シンポジウムは公開として、会員の拡大に努める。未納会費の催促等、収入確保に努める。

新日本未来学会

平成22年度予算(案)

(平成22年7月1日～平成23年の総会の前月末)

平成22年7月17日

1. 収入の部

会費収入		<u>260,000円</u>
個人会員	3,000円×70人	210,000円
役員連絡費	2,000円×25人	50,000円
シンポジウム協賛		<u>100,000円</u>
前期からの繰越		<u>503,819円</u>
収入合計		863,819円

2. 支出の部

総会・理事会経費		<u>20,000円</u>
第3回未来学フォーラム (研究発表会)		<u>200,000円</u>
平成22年度未来学シンポジウム		<u>100,000円</u>
企画委員会		<u>20,000円</u>
事務局費(郵送費等)		<u>20,000円</u>
支出合計		<u>360,000円</u>
次期への繰越		503,819円

収支差額 0円